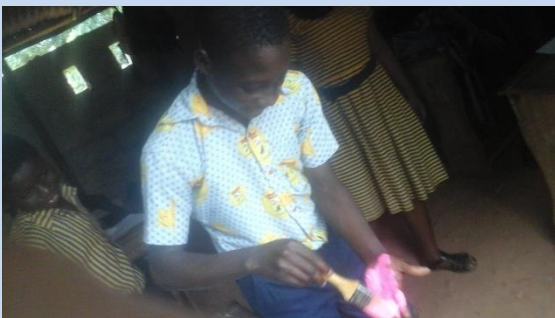


ガーナでお絵描き  
くれよん プロジェクト 56号

ついに子どもたち自身がスクールガッシュを使って授業をすることが出来ました。ずっと出来ないままでいた授業です。かつては学校内に水が出る蛇口がありました。が、やがて水源は切れ、蛇口は飾りにしかならず、スクールガッシュや布描き絵の具を使うとなると、生徒が大きなたらいを頭に乘せ往復30分以上かけて近くの家まで貰いに行くしかありませんでした。そうした事に見かねて、以来布描き絵の具を使う授業では、私自身がアクラの自宅からペットボトルに水を入れて村まで持って行き授業をしていましたが、水の重さや絵の具やその他の道具で荷物が重くなり、絵の具を使う授業を1年あまりやらずにいました。私自身が準備をするのに絵の具で形付けられた厚紙やトイレットペーパーの芯に色を塗るだけでも楽しいので、生徒もこのワクワク感を味わってもらいたい…。大袈裟ですが、奮い立ちました。今回、取り組んだのは中学2年生の二十人です。前々週に取り組みで作ったフェルトのこいのぼりを勲章のように制服につけている生徒もいました。こうした姿を見ると授業で作った物を大切にしている様子がわかりとても嬉しいです。

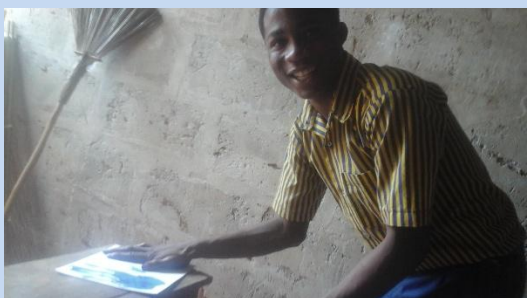
今回、授業をする前にいつも以上にシミュレーションをしました。①黒板に見本を貼る。今日の授業内容を説明“ハンドアート”②制作過程の説明“最初、片方の手にペイントをする。全員が片方のペイントが終わったら、もう片方の手のペイント。その間、汚れた手はトイレットティッシュで拭く。最後に手を洗う。両手のペイントが終わった後に各自で使う絵の具をテイクアウトボックスに一人3色選んでもらい入れる。水入れ容器は2人から3人で一つ使う。筆は各自1本。新聞紙は余分な水分を取るのに使う。このようなシミュレーションを家で準備をしている時、学校へ向かう乗り合いバスの中で何度も確認しました。すべては楽しく行う為に。



自分の手のひらに刷毛で絵の具をつける姿はどの子の顔にも笑顔がこぼれています。見本で貼ったハンドアートから好みの図案は決まったとあってほんとにみんな楽しそうです。



見本をじっくりと見つめる生徒がいました。そして見本に自分の手を合わせます。右手左手の位置を確認していたのです。この姿に嬉し涙がこみ上げてきました。



この時の私は、まだ子どもたちがどんな図案にするのか分かっていません。分かっているのは“みんな楽しそう”ということだけです。



750ミリリットルのペットボトルに入った水を1本6人で使い両手を洗います。手がキレイになったら筆を使って絵付けに入ります。ワクワクがまだまだ続きます。



友だちの作品を見て、気に入ったアイデアを自分の作品に取り入れたりもします。



完成した作品を手にしての写真も好きですが、こうした取り組みをしている時の子どもたちの顔が最高の笑顔です。私も好きです。しかし、私の指先は絵の具で汚れていた為多くの笑顔を撮れなかったのがとても残念です。



笑顔あふれるハンドアートの授業となりました。

報告日 2018年7月2日 TOSHIKO



協賛 ペンてる株式会社様(スクールガッシュ)